

## 綱 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

# JCI 福島 JC ニュース

FUKUSHIMA  
JUNIOR CHAMBER  
OF COMMERCE

— 福島青年会議所新聞 —

福島青年会議所新聞

## WEB版 Vol.505

発行責任者 今野 陽介  
編集責任者 伊藤 大地  
発行日：2018年2月

## 2018年度スローガン



# 感謝報恩、そして未来へ

～躍動せよ若き獅子たち～

### ■はじめに

1963年7月、福島青年会議所は「集え、若き獅子たちよ」のスローガンの下設立されました。創始の精神は、先輩諸兄から英知と勇氣と情熱をもって連綿と受け継がれ今日に至ります。創立55周年を迎えるにあたり脈々と紡いでこられた歴史を振り返るとともに、これからの未来に向かって躍動する年として参ります。我々の取り巻く環境は、東日本大震災を経験し、復興から自立した地域の活性化に向けて模索して行く中で、2年後には東京オリンピック野球・ソフトボール競技の福島市開催を控えるなど常に目まぐるしく変化し続けております。大局観をもって時流を捉え、今まで以上に地域に頼られ求められる存在となるべく運動を展開していかねばなりません。



第55代理事長  
今野 陽介

### ■創立55周年を迎えて

福島青年会議所は、2018年7月に創立55周年を迎えます。今まで半世紀を超える長きにわたり、先輩諸兄の運動はもちろん、地域の皆様、会員一人ひとりに関わる会社・社員、家族など、全ての方々のご理解、ご支援があったからこそ

運動を継続することが出来ました。内外からの多大なる支えのもとに歴史を紡いでこられたことに感謝し、そのご恩に報いる時は今です。「感謝報恩」、その情熱を表す創立55周年記念事業、記念式典を創り上げ、次代に繋がる記念誌をこれまで携わった皆様と共有して参ります。

また、この記念すべき年に、先輩諸兄が紡いでこられた伝統を継承しつつ、青年らしく自由な発想で躍動し、福島というこの故郷だからこそやるべき、尚且つ福島青年会議所でしか出来ない、明るい豊かな未来に繋がる運動を展開して参ります。

### ■会員拡大 志を同じうする者

青年世代の減少、経済の停滞など不安要素は数多くあり、当青年会議所に限らず、近年全国的な会員減少に悩まされています。しかし、こんな時代だからこそ地域にとって、そして自己成長の場として青年会議所が必要であり、明るい豊かな社会を実現する為になくしてはならない存在であると確信しております。

自己研鑽と同時に明るい豊かな社会の実現を目指すという高い志。最終的に実現したいと目指すものが「目的」、その目的を達成するために具体的に設ける目印が「目標」であり、「志」とは公共性を携え心に思い決めた信念です。志を同じうする者、その「同志」を得る為に、着実に魅力を伝播して参ります。そして、一人でも多

くの方々に門戸を開き、共に成長する機会を創出致します。

### ■愛する我が故郷のために

我々が住み暮らすこの地域がより良く、より愛される故郷となる為に…55年間、当青年会議所はその時代時代に必要とされる事業を数多く展開して参りました。過去への感謝、未来への志を胸に、目まぐるしく変わる環境の中で地域が求めていること、青年会議所が求められていることを的確に捉え、今一度既存事業を振り返り、今後の展開と取捨選択を熟考したうえで変化を恐れずに新たな一歩を踏み出す契機と致します。

そして、福島ならではのソーシャルストックの魅力を最大限に発信することで、市民が故郷に誇りを待ち、郷土愛が醸成される事業を展開して参ります。また、無償の愛を以って安心安全なまちづくりの一翼を担い、福島市社会福祉協議会との連携を密にし、会員同士の災害支援に対する意識の変革に尽力して参ります。運動を通して、市民が故郷をより愛し、またかけがえのないものであるという郷土の誇りを呼び覚まします。

### ■未来を担う子ども達へ

福島の明るい豊かな社会を担うのは、今の子ども達であり、地域活性化のためには若年世代の人口流出を防がなければなりません。それには先ず故郷である福島に生まれ育ったことに誇りを持つ社会にしていく必要があります。そして、この福島に住み暮らしたい、そう感じてもらえるよう魅力を発信し郷土愛を育む事業を展開致します。さらに、無限の可能性を秘めた子供たちが将来に向かって一歩前へ出る勇気を持ち、大きな夢を描くために、「わらしっ子塾」事業を開催し、夢を叶える原動力となる志を創出して参ります。また、健全な心身を育むために、「わんぱく相撲」を開催し、夢と希望をもつ大切さとグッドルーザーの精神を涵養して参ります。未来を担う子ども達<sup>かんよう</sup>が、郷土愛に溢れ、夢を描ける故郷の実現を叶えるべく邁進致します。

### ■郷土愛育むまつりを内外に発信

昨今、福島のまつりと言えば「福島わらじまつり」と、全国のみならず世界にも発信する場面が増えて参りました。この好機を活かし、福島の魅力<sup>かんよう</sup>を全国各地、世界に発信するという志で積極的に参加致します。また、福島のシンボル信夫山から派生している暁まいりやわらじまつりを通して、関わりのある団体・コミュニティとのご縁を大切にし、積極的に交流を図ります。さらに、わらじ作りを通して、地域のシンボルとしての「福島わらじまつり」を市内外に浸透させることも命題に掲げ伝播します。そして、まつりを今まで以上に大人から子供まで多くの市民が参加していけるよう取り組み、より故郷の文化・伝統に誇りを待ち、郷土愛を育むことの出来る機会と致します。

### ■堅実なL O M運営と福島青年会議所の浸透力

節目となる本年、今一度気持ちを新たに会員一人一人となって堅実なL O M運営に向けた取り組みをして参ります。また、新入会員を迎え拡充していく中においては、常に会員個人の知識を深め、資質向上を図る事は必須です。例会を通して、人財教育から組織充実を図ります。さらに、我々が行っている青年会議所活動の内容と運動の志を様々な媒体を通して少しでも多くの方々に伝播していくことで、価値を最大限に引き上げ、より頼られ求められる組織へ昇華します。堅実なL O M運営と会員の人財教育が会の礎となり、対外へ運動を広く発信することで運動の浸透力を高めます。

### ■未来を描く一年に

公益法人格を取得し5年。その当時の苦労を知る者は、今や決して多くはありません。公益法人格維持継続の重要性を再認識することが必要です。そして、青年会議所運動が最大の効果をもってまちの発展に寄与するために、将来への中長期的な運動指針を策定し、より幹のしっかりとした骨太な運営体制を確立致します。

## ■結びに

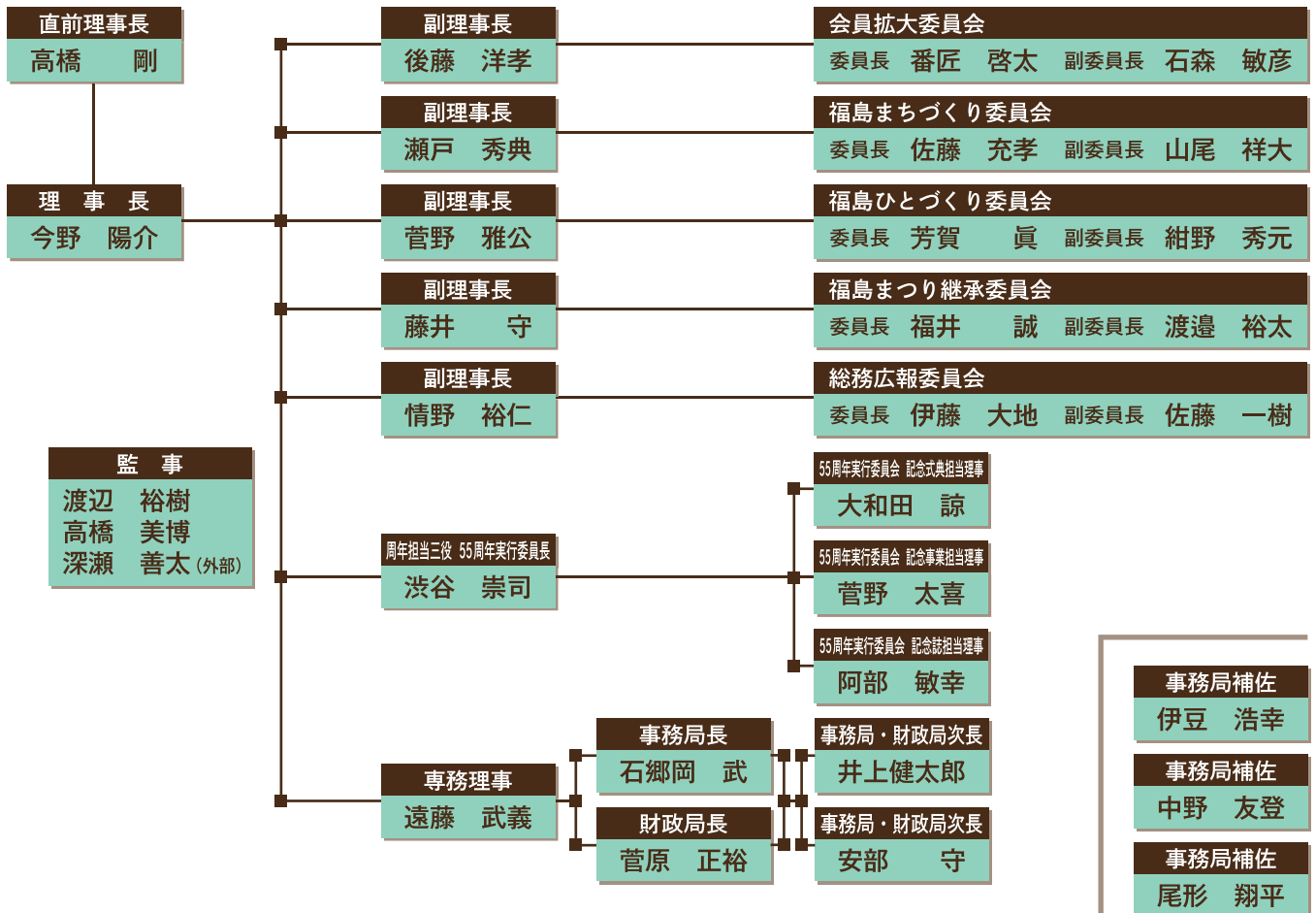
歴史を振り返り、新たなる一步を踏み出すこの機会に、個として、会として感謝報恩の精神を宿し、己を律する土台の上に、「楽しくなけりゃJCじゃない」という心待ちで会員一人ひとりが

躍動する一年として参ります。まさに我々躍動する若き獅子（志士）たちが、自ら楽しんで取り組むことで故郷を、そして福島青年会議所を最大限に発信し、郷土愛に溢れ、躍動出来るまち福島を実現致します。

**優しくある為に強くあれ**  
**我々が率先して躍動することで未来を切り拓く**  
**全ては愛する仲間と誇りある福島のために**



## 2018年組織図



# 55周年実行委員会



委員長 渋谷 崇司  
副委員長 大和田 諒  
菅野 太喜  
阿部 敏幸

## ■委員会スローガン

**Thanks a Go-Go!**  
**～福島JC 創立55周年～**

1. 55周年記念式典の開催
2. 55周年記念事業の開催
3. 55周年記念誌の作成
4. 55周年記念に関わる一切の取りまとめ及び実施
5. 会員拡大運動の実施
6. 報告書の作成

福島青年会議所は、2018年7月で創立から本年で55年目を迎えます。先輩諸兄が脈々と受け継いでこられた歴史、そして支え続けてくれた関係団体の方々、また身近な存在と、多くの人達によって今日に至ることができました。55年という節目に、その感謝の想いを伝え、そして次なる60周年へ繋げるべく運動、活動を展開して参ります。

# 会員拡大委員会



副理事長 後藤 洋孝  
委員長 番匠 啓太  
副委員長 石森 敏彦

委員 尾形優一郎 杉本 渉  
菅野 誠也 丹治 久仁  
齋藤 久志 中野 友登  
SAINBUYAN ODBAYAR 諸橋賢太郎  
酒井 隆弘 吉田 潤平  
芝田 裕哉

## ■委員会スローガン

**BE A PIONEER!**  
**～開拓者たれ～**

1. 会員拡大運動の実施・統括
2. 2018年度12月時点での総会員数110名必達（仮入会者を含む）
3. 入会予定者セミナーの開催
4. 会員資質向上のための研修の開催
5. 京都会議の引率・参加の取りまとめ
6. 2月例会の開催
7. 報告書の作成

より魅力的な組織として青年会議所が明るい豊かな社会を築くために、会員の資質を向上させ、会員一人ひとりが責任と自覚を持って拡大運動を展開していきます。まずは全会員が仲間意識を持って拡大運動ができる環境を整えます。メンバーがコミュニケーション能力を向上させ、営業に対する考え方を身につけ、より魅力的な青年として成長することで地域に対しても貢献でき、会員の拡大につなげます。また、拡大対象の裾野を広げ、発信力を強化し、柔軟な手法で拡大運動を行います。我々と同じ志を持つ仲間を増やし、会員の資質を向上させることで感謝の気持ちを忘れず地域へ貢献できる人財となり、郷土愛に溢れ、躍動出来るまち「福島」を実現します。

# 福島まちづくり委員会



副理事長 瀬戸 秀典

委員長 佐藤 充孝

副委員長 山尾 祥大

委員 伊豆 浩幸 神保 卓朗  
尾形 彰彦 鈴木 正人  
駒田 晋一 土屋 令雄  
斎藤 秀人 並河 暢彦  
佐藤 卓宏 新村 隆文

## ■委員会スローガン

### 未来へつなぐまちづくり

1. 福島市のソーシャルストックを活用した郷土愛を醸成する事業の開催
2. 災害時支援相互協力協定の深化
3. とうろう流し花火大会の設営・運営・参画
4. 会員拡大運動の実施
5. サマーコンファレンスの引率・参加の取りまとめ
6. 4月例会の開催
7. 報告書の作成

.....

私たちの住む福島市は、美しい自然と豊かな農作物に囲まれた素晴らしいまちです。しかし、若年層の市外流出や様々な要因により取巻く環境は日々めまぐるしく変化し、少子高齢化などその将来にはいくつもの不安を抱えています。そのような状況の中で、未来へ持続し、地域に求められるまちづくりに真に必要なものとは何かを熟考しながら率先して行動し、地域の人々が故郷をより愛し、各々が持つ郷土への誇りを呼び覚ますことで、郷土愛に溢れ、躍動出来るまち「福島」を実現します。

# 福島ひとづくり委員会



副理事長 菅野 雅公

委員長 芳賀 眞

副委員長 紺野 秀元

委員 安齋 源 佐藤 大吉  
太田 暁雄 佐藤 孝明  
尾形 茉耶 丹治 史博  
菊地 幸治 籙野 良美  
齋藤 栄太 渡辺 忍

## ■委員会スローガン

### 笑顔の先にある 確かな夢の実現へ

1. わらしっ子塾の開催
2. 郷土愛を育む事業の開催
3. わんぱく相撲の開催・引率（LOM・ブロック）
4. 会員拡大運動の実施
5. 全国大会の引率・参加の取りまとめ
6. 10月例会の開催
7. 報告書の作成

.....

わらしっ子塾、わんぱく相撲を通じて、福島の次世代を担う子供達に、夢中になれる、本気になれる機会を提供し、先にある確かな喜びと感動を通じ、一人ひとりが郷土愛と将来の夢を抱けるよう応援して参ります。笑顔で夢を叶えられるまち『福島』の実現へ向けて共に歩んでいきましょう。

# 福島まつり継承委員会



副理事長 藤井 守  
委員長 福井 誠  
副委員長 渡邊 裕太

委員 赤間 亮介 佐藤 海華  
阿部 知浩 高野 智宏  
阿部 真澄 高橋 貴之  
遠藤 翼 新田浩亜吉  
大宮 篤 山際 喬紘  
尾形 翔平

## ■委員会スローガン

**福島のために…やったれ！  
そして、やったる！**

1. 福島の伝統文化を伝え故郷の魅力を発信する事業の開催
2. 地域団体とのまつりを活かした交流の推進
3. 福島わらじまつりの発展に関わる事業への参画
4. 会員拡大運動の実施
5. 東北青年フォーラムの引率・参加の取りまとめ
6. 6月例会の開催
7. 報告書の作成

福島を代表する祭りである「わらじまつり」が全国的に認知されてきました。しかし、時代の経過と共にまつりの歴史的背景や由来は薄れているように感じております。委員会事業を通して市民一人ひとりが「わらじまつり」の伝統や文化に触れ、福島のソーシャルストックである「日本一の大わらじ」を日本、そして世界へ発信すべく、関係団体と協力し、故郷の祭りである「わらじまつり」や伝統ある「暁まいり」を開催し、福島を盛り上げて参ります。

# 総務広報委員会



副理事長 情野 裕仁  
委員長 伊藤 大地  
副委員長 佐藤 一樹

委員 太田 憲一 高子 芳典  
檜村 圭亮 野尻 伸吾  
菊池 謙 柳沼 綾  
岸 秀樹 山本 英佑  
澤田 健 渡邊 恒博

## ■委員会スローガン

**支える力、拡げる力、背中で語る55年の矜持  
～なくてはならぬ存在感～**

1. 総務に関わる一切の業務及び諸会議の議事録作成
2. 福島JCホームページの運営・JCニュース発行  
会員向けメルマガ（Web版）・SNSを活かしたLOM運動の発信
3. 例会の設営・運営  
新年会（1月）・3月・5月・7月・8月・9月・11月・  
卒業式（12月）の開催
4. 全国JCネットワークとの交流
5. 会員拡大運動の実施
6. ブロック大会の引率・参加の取りまとめ
7. 報告書の作成

本年55周年を迎える福島JCにおいて、紡がれた歴史を継承しつつJC綱領にもある「明るい豊かな社会」を実現すべく活動を展開するため、総務広報委員会として堅実なLOM運営の下支えと効果的な広報活動をしてまいります。まずは、例会の設営・運営を行うことで、福島JCメンバーの絆醸成をします。そして、講師講演を開くことで会員の知識・資質向上を図ります。さらに今まで以上の発信力を持つべく、新たな広報手段を用い、地域や全国に向け活動・運動を拡げてまいります。そのために、総務広報委員会メンバーが積極的にJC活動に参加し、事業をサポートする委員会としてまいります。そしてキャピタルJCとしての矜持を胸に、伝統に感謝し、変化を楽しむ一年にまいります。